学校番号	107

令和6（2024）年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

令和7年4月1日

学 校 法 人 電 波 学 園
ぎ ふ 国 際 高 等 学 校

令和6（2024）年度教育目標
―『信頼と期待』に応える学校であり続ける―
ぎふ国際高等学校

- 中学校・高等学校および関係諸機関と密な連携を取り、地域社会からも信頼される学校づくりを目指す。

- 面倒見の良いきめ細やかな指導と家庭との連携強化により合理的配慮に基づく教育の質的向上と情報発信に努める。

- ユニバーサル授業の導入により話す、書く力、表現するといったリテラシーの向上を図り、社会規範を守り、人を思いやる気持ちを持ち、主体的で協働的な姿勢を保ち、前向きに日々の生活に取り組む。
- 生徒への対応として声掛けを頻繁に行い、教育相談・学習指導・進路指導が三位一体となった全校的な指導に取り組む。

- 自学自習という通信制の学びを支援する学習サポートの時間の質的・量的向上を図る。
  資格取得・ボランティア活動・部活動等、教科外活動のさらなる充実を図る。

令和6(2024)年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	学校経営全般
2	今年度目標	① 各教員がカウンセリングマインドを持って、受容・理解・支援の指導に徹しながら、さらなる資質（特に教育相談に関する）向上を図る。 ② インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の更なる研究と実践を進める。 ③ ICT機器・タブレット・電子黒板ペンタブレットを活用した授業の研究と実践を行う。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 発達障がいや青年期の特性を知るための職員研修や講習会を実施する。 ② タブレットによる学び直し（Thanksドリル）の授業の研究と実践を行う。 ③ タブレットによる調べ学習、課題の書き込みやアンケートに活用する。 ④ アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対しても、更に情報発信を行うよう努め、理解と達成が得られるよう、学校全体で取り組む。 ⑤

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 教員研修：「青年期の対人関係における居場所感・日本における不登校問題」講師 中部学院大学准教授の益川優子氏　講演会：保護者会総会後「自己肯定感を高めるために、家庭でできること」講師 中部学院大学教授の藤岡孝志氏	A
		② 校内においてケース会議を含んだ教員研修を年3回実施することができた。	A
		③ インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の研究と実践を行い、わかりやすい授業になるよう努めた。	B
		④ プロジェクター、タブレット、電子黒板などのICT機器を活用した授業の実施。姉妹校専門学校による職業実践を念頭においた体験学習をおこなった。	A
		⑤ アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対して、ホームページやSRメール、SNSを活用し、常に情報発信に努めた。	A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① あなたは、学校の教育目標や教育方針を理解していますか。 （アンケート） よく理解している 22.9%、ほぼ理解している53.4%、あまり理解していない 17.3%、まったく理解していない0.4%であり、76.3%が「理解している」という回答であった。	B
		② 個性によるクラス分けが行われていることにより、お子様は居場所を得ることができていると思いますか。 （アンケート） そのように思っている 63.2%、多少はそのように思っている 28.2%あまりそのように思っていない 4.1%であり、91.4%が「居場所を得ることができている」という回答であった。	A
		③	
		④	A
		⑤	
6	総合的に捉えた成果・課題	① 落ち着いた雰囲気で授業を受けることができ、校内も落ち着いている。	A
		② プロジェクター、タブレット、電子黒板等のICTを活用した授業や補習講座により基礎学力が定着できた。	A
		③ 校内LANによるライブ配信の講演会・講習会や欠席者に対するオンデマンド配信を後日実施することができた。	B
		④ 生徒からの相談などに対して教員が適切に対応している。	A
		⑤ 中学校・高校・適応指導教室等と情報交流と連携強化ができた。	A
7	次年度に向けた改善策・目標	① 各教員のさらなる資質（特に教育相談に関する）向上。 ② インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の更なる研究と実践を進める。 ③ ICT機器・タブレット・アップルペンシルを活用した授業の研究と実践を行う。タブレットによる学び直し、調べ学習や課題の作成など生徒が自ら学ぶ力を身に着けさせれるよう、研究と ④ アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対しても、更に情報発信を行うよう努め、理解と達成が得られるよう、学校全体で取り組む。 ⑤	

※評価 A･･･十分達成した　B･･･おおむね達成した　C･･･やや不十分　D･･･不十分

令和6(2024)年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	教務（教育課程・学習指導）
2	今年度目標	① 入学してくる生徒の学力と卒業後の進路を鑑み、今後も意見交換を行いつつ、学校としての評価方法の検討を続ける。また、生徒個々の成長のためにも観点別評価を生徒にフィードバックする方法を検討する。 ② タブレットをさらに活用することで、無理がない範囲で生徒が授業の参加を促すことを検討する。 ③ 1年生全体でスタディサプリに取り組むので、生徒たちが積極的に取り組む方策を検討、実施して、基礎学力の向上を図る。 ④ サポートが必要な生徒への声掛けも続け、早期に生徒自らが学習に取り組む態度を養う。 ⑤
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 入学してくる生徒の学力と卒業後の進路を鑑み、今後も意見交換を行いつつ、学校としての評価方法の検討を続ける。また、生徒個々の成長のためにも観点別評価を生徒にフィードバックする方法を検討する。 ② タブレットを活用する研究授業の実施。 ③ スタディサプリの使用を定着させるためにLHRの活用と課題配信を行う。リクルートから活用事例を聞き、本校でできることをする。 ④ 学習サポート時間、レポートサポート日のアピールと、具体的な予定を早く展開することで参加者を増やす。 ⑤

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 昨年度に続き、検討会を複数回行い、具体的なシミュレーションを行いながら、次年度の評価方法をきめることができた。観点毎の評価のフィードバックはできていない。 ② Kahootというアプリを利用して、生徒に興味を持たせ、参加型の授業もすることができた。授業内容の定着を図るようなタブレットの活用をさらに進めたい。 ③ 課題配信や、到達度テストの連動課題配信により、学年全体でスタディサプリの活用をすすめた。学校以外でも75%は講義動画等の視聴や問題に取り組んでいるが、さらなる向上を目指す。 ④ 学習サポートを利用する生徒、レポート指導日に参加する生徒が増え、レポートの提出状況は改善できた。基礎学力の向上や自己学習力の向上を目指したい。 ⑤	B A B A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 授業の内容、課題の内容は概ね高評価を受けている。 ② 学習サポートを定期的に利用した生徒も増加している。また、課題の提出期限に慌てて提出する生徒が減り、計画的に課題に取り組んだことが伺える。 ③ 提出課題以外に継続的に学習に取り組んだ生徒の割合は6割ほどで、さらなる向上が望まれる。 ④ ⑤	A A B
6	総合的に捉えた成果・課題	① やらなければならないこととして与えられたことには素直に取り組んでいる。しかし、継続的に家庭学習に取り組んだ生徒が半数ほどであることから、家庭学習に積極的に取り組ませたい。 ② 学習サポート、レポート指導日により、学習面で不安感を持っている生徒をサポートすることができた。今後は、サポートによる安心感も重要だが、将来に向け自学自習の力も伸ばしたい。 ③ 卒業間近に、不安感を募らせ進路変更をする生徒が出てしまった。卒業後に向け、登校日数を増やしていく、資格の取得などで自信を身につけさせることの重要性を意識させたい。 ④ リクルートによると、初年度として他校よりも使用率が高いとのことであったが、LHRでも取り組んだにもかかわらず、1/4程度の生徒はほとんど取り組めていない。また、自主的に動画を視聴している生徒は半数ほどであったので、基礎学力の向上を目指すためにも、さらに使用率を上げる。 ⑤	B A B B
7	次年度に向けた改善策・目標	① 1・2年次生は学年単位でスタディサプリを利用する。そのため、家庭学習の時間を増やすためにも、スタディサプリの積極的な活用をすすめる。授業の予習・復習用としての課題や講座の配信をしてみる。 ② 3日・5日コースの授業に、生徒に興味を持たせ楽しませる、ドローンなど学校のIT機器を活用した授業を取り入れる。 ③ 学習が苦手な生徒へのサポートを続け不安感を取り除くとともに、目標を持たせ自学自習できるよう自立を促す。 ④ ⑤	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

令和6(2024)年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	生徒指導
2	今年度目標	① 守るべき規律・規範を明確にし、生徒が主体的に遵守していけるよう、職員の共通理解・共通指導を徹底させる。 ② 社会に出ても通用する常識・規範意識・コミュニケーション能力等の人間的素養を身に付けさせる。 ③ 人に優しく思いやりのある豊かな人間性を身に付けさせる。 ④ 部活動・ボランティア活動への参加を促す。 ⑤
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 登校指導を行う中で、生徒の様子を観察し、声掛けを行う。 ② 頭髪・服装違反生徒に対して期限を定めた上で、改善指導を行う。 ③ 職員連絡会において、生徒の動向から改善すべき内容を周知し、職員の共通理解と指導を求める。 ④ 生徒会活動に加え、MSリーダーズ活動や地域のボランティア活動を積極的に行い、交通安全啓発活動及び挨拶運動や地域の運動会・清掃活動などの地域貢献を行う。 ⑤ いじめアンケートを年3回実施し、予防・防止・把握に努める。

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 登校指導を行う中で、生徒の様子に気を配り、日常の変化に気づくことができた。 ② ほんの一部ではあるが、頭髪や着こなしに問題がある生徒に対して期限を定めて改善指導を行った。 ③ 職員連絡会において、生徒の状況、改善や配慮するべき内容を共有し、職員の共通理解と指導を求めた。 ④ 生徒会活動に加え、MSリーダーズ活動等のボランティア活動を積極的に行い、交通安全啓発活動や地域の運動会・文化祭・清掃活動を行った。 ⑤ いじめアンケートを年3回と、個人面談の年2回以上の実施により、予防・防止・把握に努めた。	A A A A A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 生徒アンケートでは、「校則を遵守しており」、「いじめ・嫌がらせに対応している」が共に8割を超える高評価を得ることができ、大変良い結果であると思われる。 ② 保護者アンケートでは、生徒守則は適切であるかについて「そう思う」「多少はそう思う」という回答が88.4%であり、高評価をいただくことができた。 ③ 保護者アンケートにおける、いじめ・嫌がらせ対応について、「対応している」が59.9%、「わからない」が38.3%のため、本校の取り組みをこれまで以上に積極的に発信していく必要がある。「わからない」の中にはそもそも問題が存在していないとの認識の保護者も含まれるという認識からA評価とした。 ④ ⑤	A A A
6	総合的に捉えた成果・課題	① おおむね校内には落ち着きがあり、目標とする生徒像から逸脱した行動をとりがちな生徒はごく一部いたが、指導を続けていく中で改善されつつあり、安定した生活を送っている。 ② 継続した指導を行い、改善が見られたため、今後も見守りを続けていく必要があると判断される生徒が数名いる。 ③ 口喧嘩から暴力行為に発展し、懲戒指導を受けた件数が1件あった。 ④ 交通事故による救急搬送の生徒がいたため、交通安全の啓発をより一層行う。 ⑤	A A B B
7	次年度に向けた改善策・目標	① 全職員が連携のうえ、継続して指導に励むことで守則を生徒が主体的に遵守していけるよう、職員の共通理解・共通指導を徹底させる。 ② 従前にも増して「身だしなみ」指導に力を入れていく。具体的には、上着のボタンがけ、ネクタイ・リボンのゆるみなどの身だしなみを、継続的に指導する。また、長期休暇に染髪しないよう事前に周知徹底する。 ③ MSリーダーズの諸活動（交通安全校外指導・清掃活動、地域のボランティア活動、他）を通して地域に貢献する。 ④ 学校までの自転車通学者はヘルメット着用を義務付けるため、徹底させるよう、教員間や保護者との連携を確実に行う。 ⑤ 「いじめ」は起こりうるという立場で常にアンテナを高くし、職員間の情報共有を行う。	

※評価 A･･･十分達成した　B･･･おおむね達成した　C･･･やや不十分　D･･･不十分

令和6(2024)年度 自己評価報告書

Ⅰ	評価領域・分野	教育相談
2	今年度目標	① 生徒情報の共有と記録、チームでの連携を深める。 ② 臨床心理士（スクールカウンセラー）との連携を強め、より生徒理解につながるようにする。 ③ 教員が教育相談の知識を深められるよう、案内をしていく。 ④ 個別の教育支援計画が正しく記入できるように説明していく。 ⑤
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 日常の生徒の様子に目を配り、気になることは記録すると同時に、学年主任や各担当者と相談できる雰囲気づくりに心がける。 ② 職員会議での生徒情報や連絡事項を臨床心理士に伝え、よりカウンセリングに活かせるようにする。 ③ 県や様々な機関からの研修案内を職員会議ですると同時に、学内での研修にもつなげていく。 ④ 中学校や保護者からの情報をもとに、必要な支援が生徒に3年間通して届くように記入するよう教員に促す。また、卒業後に困ることが減らせるように支援計画を進学先、就職先につなげるよう保護者に伝える。 ⑤

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 担任が主となり生徒の様子を見守り、記録する体制は取れてきている。また、大きなことではなくても何かあれば、学年主任や各担当者に相談、報告し、共有が図れてきていると思う。 ② 職員会議で挙がった生徒に対して、臨床心理士の先生に伝え、様子を確認してもらったり、話を聞いてもらう際の参考にしてもらった。 ③ 研修案内を伝えることはできたが、実際に研修を受けるまでには至っていない。学内研修は、専門家を迎えたり、生徒情報を共有し、話し合うなど、行うことができた。 ④ 昨年度までの形式と変え、より詳しい支援計画を取り入れ、担任に記入してもらうことができた。また、進路先へもつなげ、より長期での支援ができるよう、担任を通して話をすることができた。 ⑤	A A B A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 学校は様々な配慮や支援が必要な生徒に対して適切な対応を取っていると思いますか。 保護者の8割以上、生徒の8割以上が、適切な対応を取っていると回答している。 ② 学校はスクールカウンセラーや養護教員を配置しているため、安心できる環境だと思いますか。 保護者の8割以上、生徒の9割以上が安心できる環境であると回答している。 ①②ともに高い評価を得ているため、本校の教育相談に理解をいただいていると考えられる。 ③ ④ ⑤	A A
6	総合的に捉えた成果・課題	① 生徒情報の共有と、それをもとにしたサポートが、担任だけでなく複数の教員、臨床心理士によって行うことができた。 ② 生徒だけでなく保護者を臨床心理士につなげることで、不登校傾向にある生徒と保護者の社会からの孤立を少なからず軽減できた。 ③ 本校も、教員経験の浅い担任も増えてきているため、研修などを通して教育相談の知識を得られる場をより増やしていく必要がある。 ④ 新たな個別の教育支援計画を始め、より進路先へ生徒の情報を詳しく伝えるようにできた。今後さらに、生徒の助けとなるような進路先へのつなぎができると良い。 ⑤	A B B A
7	次年度に向けた改善策・目標	① 生徒情報の共有、記録をもとに、チームでの生徒サポートがスムーズにできるような体制をつくる。 ② 生徒、保護者ともに、臨床心理士とのつながりを広げられるようにする。また、不登校傾向にある生徒や保護者を臨床心理士につなげることで、孤立しないようにする。 ③ 発達特性やジェンダー、ヤングケアラーなど教員研修の充実。 ④ 個別の教育支援計画に基づいた適切な対応と進路先へつなげることで、長期にわたるサポートをしていく。 ⑤ 生徒、保護者、職員がお互いに頼ることのハードルを低くするためにも、多くの目で見て日ごろの会話を大切に、変化を見落とさないよう、お互いに声掛けをしていく。	

※評価 A･･･十分達成した　B･･･おおむね達成した　C･･･やや不十分　D･･･不十分

令和6(2024)年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	進路指導
2	今年度目標	① キャリア教育計画において、各年次の評価基準を明らかにして自己評価できるようにする。 ② 進路指導行事において「コミュニケーション能力」の養成を目標としたWEB活動を進める。 ③ 進路学習を通して「探究活動」「キャリア学習」への道筋を明らかにする。 ④ 個々の適性や目的意識に応じて就職指導を粘り強く進め、確実な就職試験合格を支援する。 ⑤ 積極的に検定試験を支援することで、進学・就職へのモチベーションを高める。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 具体的な評価基準を明らかにして、キャリアパスポートのポートフォリオ活用を高める。 ② ICTを活用して、進路選択に必要なコミュニケーション能力（目的に応じた探究、理解力）を実感できるようにする。 ③ 「LHR」や「進路だより」等を通して、「探究学習」「キャリア学習」へ情報提供を積極的に行う。 ④ 進路指導室を活用して、進路情報検索、個別指導やグループ指導を積極的に行う。 ⑤

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① LHRにおいて、年間を通じた「キャリア・パスポート」の指導を強化することで、自己評価への意識づけを行った。 ② 進路研究に当たりwebを活用した進路情報の検索や、Teamsを活用することにより各学年進路説明会などを行った。 ③ スタディーサプリFOR SCHOOLというキャリア教育のソフトの導入を通して「探究的な学習」「キャリア教育」と進路学習の関係を具体的に進めることができた。 ④ webによる就職情報検索だけでなく、生徒の適性を十分に考慮しながら対面による面接指導にも重点を置いて行うことができた。1・2年次の三者懇談等が充実した。 ⑤ 「スタディサプリ」の学習進捗具合が優秀な生徒を表彰するなどして、計画的な学習を支援した。進路というよりは教務主体で十分に達成と思われる。	A A A A A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 学校は進路設定向けての情報提供を適切に行っていると思いますか。 生徒の9割、保護者8割が「そう思う」「多少はそう思う」という評価であるため、生徒や保護者の進路学習の情報収集や進路選択支援への要望に応えている結果であると思われる。 ② ③ ④ ⑤	A
6	総合的に捉えた成果・課題	① 「キャリア・パスポート」の積極的な活用によって、各種資格検定試験への意欲向上につながっている。 ② 「コミュニケーション能力」の養成や「探究的な進路選択」への意識向上を支援することができた。グループ学習、学校行事（異文化交流・社会研修）の趣旨をさらに浸透させたい。 ③ ICTを活用した、進路情報収集や「オープンキャンパス」参加など具体的な活動場面の提供を行いたい。 ④ 保護者への確実な情報提供によって、保護者からの更なる高い評価を得ることができる方法を検討する。 ⑤	B A
7	次年度に向けた改善策・目標	① LHRやhandy進路指導室を使用した対面指導と、ICTを活用した進路支援の連携を充実させたい。 ② 進路説明会・社会研修（高等教育機関見学）・LHR（スタディサプリfor school）・資格取得・異文化国際交流会をキャリアパスポートによって有機的に結び付けるように考えたい。 ③ キャリア・パスポートを活用して、「キャリア教育」を進め各種資格検定試験の受験者増加や合格率向上を図りたい。 ④ 専門的な技術・技能習得や今後の就職を見据えた進路指導を強化して、確実な進路決定を促す指導を図りたい。 ⑤	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

令和6(2024)年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	特別活動	
2	今年度目標	① 1年次：入学間もない生徒たちが親睦を深め、小学校・中学校時代に集団行動に苦手意識があった、もしくは参加した経験の少ない生徒たちに「慣れる」ことを目標とする。また集団に於ける規律等について学ばせ ② 2年次：自分の将来を意識しながら、姉妹校見学を通して現実的に自分の進路に向き合い、決定できるようにする。また、規律ある集団行動がとれるようにする。 ③ 3年次：卒業後の進路選択を明確にし、進路未決定者を出さないことを目的とし、その一助となるような活動内容を検討する。 ④ 異文化理解の観点から、様々な行事を通じて「他者の理解」に取り組む。 ⑤ 修学旅行：より多くの生徒が参加したいと思う計画つくりと、参加してよかったと思える実施を心掛ける。また、集団行動が苦手な生徒が、安心して参加できる取り組みをする。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 1年次：LHRにおける事前指導や当日の行動を通して、集団行動の大切さを学ばせる。 ② 2年次:事前学習で自分の進路を意識し、進学後の自分を想像しながら体験をし、振り返りをする中で、自分の進路決定に進めていく。また、グループ活動を通して規律を学ぶ。 ③ 3年次：校外での活動は少なくなるため、学内に於ける進路説明会やLHRの内容を子細に検討し、早めの進路決定を促せる環境づくりを心がける。社会人として必要になる食事のマナーを実践教育で学ぶ。 ④ 異文化国際交流会の実施 異文化国際交流講演会の実施 ⑤ 修学旅行：生徒がより楽しめ、学習できるような計画を旅行会社や学年会で作り上げていく。また、不安な生徒の声を聴きながら、一緒に考え、参加できるような体制を作っていく。	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 1年次：概ね当初の目標は達成できたと思量する。ただ日程面で屋外での活動には不向きであった点が残念であった（春季は暑く、秋季は寒冷であった。） ② 2年次：春季は集合時間に間に合わないなど問題もあったが、振り返り話す中で規律ある集団行動ができるようになった。また、進路についても早めに取り組もうとする姿勢が見られた。 ③ 3年次：例年と同様テーブルマナー講座を実施することができた。LHRについては学年団が分担して主権者教育・バイアス・金融知識など幅広い内容に取り組むことができた。 ④ 2年次生：愛知工科大学外国語学校の留学生との交流会、及び1年次生：JICA（国際協力機構）の海外青年協力隊員による講演を拝聴した。いずれも異文化理解の観点から有益であった。 ⑤ 修学旅行：2泊3日と1泊2日を実施することで参加のハードルを低くし、4回の事前指導で場所や計画の班別学習をする中で集団や多くの人と関わる経験をし、安全で楽しく実施できた。	B A A A A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 生徒アンケート14.「学校は生徒にとって有意義と思われる特別活動（社会研修・修学旅行・研修会）を実施していると思いますか。」に対して9割以上が肯定的な回答であったので概ね良好であったと思われる。 ② ③ ④ ⑤	A
6	総合的に捉えた成果・課題	① バス手配等、事務的なレベルで思い通りにならない部分があった、例年以上にコストがかさんだので、そういったところの改善を図り、生徒にとって意義深いものとしたい。 ② 1年次に関してはスタディサプリの導入に伴い、LHRの時間が不足気味になった。次年度は十分に検討したうえで年間計画を立案したい。 ③ 2年次：姉妹校見学を通じて、進路を明確にできた生徒も多くいた。全体的に落ち着いた学校生活を送れているが、周りを考えた行動がとれない生徒もおり状況に応じて指導していく必要があ ④ 3年次：テーブルマナーに関しては事前学習も含め、生徒も興味や意欲をもって取り組むことが出来た。 ⑤ 修学旅行：6月のアンケートから30人減の実施となったが、規律を守れない生徒はおらず、参加した生徒のほとんどが笑顔で「行けてよかった」と言える修学旅行であった。	B B B B A
7	次年度に向けた改善策・目標	① LHRの年間計画の十分な検討。 特別活動（校外学習）の内容の検討。場合によっては公共交通機関の利用も検討したい。 ② 3年次：テーブルマナーの移動手段の問題を除けば、取り立てて問題はないと思われる。LHRにおいて社会人として必要になるであろう知識はの基本は取得できた。進路に対する意識を高める流れは作れたと思わ ③ 2年次：姉妹校見学の1回で終わらず、より詳しく知り自分の進路に役立てる方法を考えたい。3年次になってから焦らないように、下地を作れる時期にしたい。 ④ 国際異文化交流会に於いては事前準備と連動した郷土学習を次年度以降も継続していきたい。単発の行事だけでなく、継続的に総合探究の時間等を利用して異文化理解ひいては自己の理解に取り組ませたい。 ⑤ 修学旅行：予め生徒の状況をより把握し、できることは備えておく必要がある。また、生徒自身も友人関係や体調など、集団で2日あるいは3日行動できるかシュミレーションをきちんとさせることも大切である。	

※評価 A･･･十分達成した　B･･･おおむね達成した　C･･･やや不十分　D･･･不十分

令和6(2024)年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	保健指導	
2	今年度目標	① 自己の健康や安全意識を高め、自己管理に繋げる保健指導を行う。 ② 保健教育・保健指導について講習会や講話を行い、生徒自身が正しい知識を持って行動できるように繋げる。 ③ 緊急時の対応や個に応じた適切な対応を行うために、職員間で情報共有をする。また、職員向けの講習を行う。 ④ ⑤	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 学校医や学校薬剤師からの助言や情報を含んだり、学校保健計画に基づいた保健だよりの作成をし、計画的な保健指導を行う。また、各種リーフレットやポスターを活用し、校内掲示をする。 ② 外部機関からの講師や学校薬剤師と連携をとりながら講習会や講話を行う。 ③ 担任が入力する生徒情報や指導記録などで状況を把握し、保健室来室時に適切な対応ができるようにする。また、健康管理票で得た情報をまとめ、緊急時対応が必要となる生徒をはじめ、配慮が必要な生徒を職員会議で情報共有する。 ④ ⑤	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 学校保健計画に基づいた保健だよりの作成に加え、生徒アンケートを取り、生徒が関心を持っている保健的内容を保健だよりに入れることによって生徒自身の健康に対する意識を高めることができた。 ② 外部機関の講師や学校薬剤師と連携をとることで、本校の実状に応じた内容で講習会や講話をしていただくことができた。 ③ 生徒来室時には生徒情報記録をはじめ、健康管理表の情報など生徒のあらゆる情報をもとにし、問診や対応を決定することができた。また、緊急時に備えて保護者の方に連絡をとって対応を確認するなどし、先生方との情報共有に努めることができた。 ④ ⑤	B B B
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 安全面・衛生面に対する配慮について、今後も引き続き環境整備に意識を向け取り組んでいきたい。 ② ③ ④ ⑤	B
6	総合的に捉えた成果・課題	① 自己管理に繋がる保健指導を目指して、こちらが決まった情報を発信するだけでなく、生徒自身が知りたいことや困っていることなどを知り、その情報を発信することで生徒自身の健康に対する意識を深めることができたと感じたため、今後も生徒アンケートの実施をしていきたい。 ② ③ ④ ⑤	B
7	次年度に向けた改善策・目標	① 生徒アンケートの実施 ② 保健教育に関する講習会や講話において、現在まで実施してきたものを含めて、今後どんな事が生徒にとって必要なのかを捉え、実施する講習会の内容を検討するなど実施の工夫をしたい。 ③ ④ ⑤	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

令和6(2024)年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	学校図書
2	今年度目標	① 図書室の利用頻度の向上と利用者の幅の拡大。 ② 図書部の部員増員と継続的な活動参加。 ③ 図書室を利用しやすくなるような雰囲気作りと環境整備。 ④ 多様な分野の図書を配架することを意識した、新規購入図書の選定。 ⑤ 未返却図書の返却を呼びかける。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 図書だよりにて図書室の最新情報をお知らせする。 ② 図書だよりに図書部の情報を掲載する。新規購入図書の配架準備、貸出・返却図書の管理等を行う。 ③ 誰もが気軽に利用することができる図書室を目指し、ポップを掲示したり新規購入図書を別置したりする。 ④ 図書部員や教職員に購入希望図書を募る。 ⑤ 図書未返却者に、返却を促す通知文を渡す。

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 図書室の利用者は一定数いるが、利用者の幅の拡大はできていない。図書部の活動や図書だよりの内容を工夫して情報発信を継続する。 ② 部員は増加した。継続的な活動参加を目指すため、新たに季節ごとにテーマを決めて別置を設けたり装飾をしたりするなど、活動を増やした。継続的な参加にはまだ繋がっていない。 ③ 居場所づくりを目指し、図書だよりの発行と外部相談機関のカードやリーフレット等を取り揃えるなど昨年の取り組みを継続した。最新の職業マップや映画のポスター等も掲示した。 ④ 図書部員や定期的に図書室を利用してくれる生徒、教員にも新規購入図書の希望を取った。 ⑤	A C A B
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価		
6	総合的に捉えた成果・課題	① 今年度は2年生の生徒の図書室利用者が多く、友人と一緒に来室するため新規の利用者も増加した。図書部では新しい試みを始めることができた。 ② 部員の活動継続のために、季節ごとにコーナーを設けてポップの作成や選書などを行ったが、継続的な活動に繋げることはできなかった。 ③ 今年度も継続して、外部の相談機関のカードやリーフレットを取り揃えた。次年度も継続し、古いものは処分するなど整理していきたい。 ④ リクエストBOXを設置したところ、生徒や教員からたくさんのリクエストが届いた。中には、普段図書室の利用がない生徒からのリクエストも多数あったため、次年度も設置し新規利用者の増加に繋げたい。 ⑤	A C A A
7	次年度に向けた改善策・目標	① 図書部の活動と図書だよりの発行を工夫して継続しつつ、新規利用者の増加を引き続き目指したい。 ② 今年度は毎月コーナーを設けて別置することで、部活の継続的な参加を目指したが、達成には至らなかった。次年度は、新図書購入を2回に分けるなど工夫してみたい。 ③ 次年度も図書だけでなく、外部機関の資料コーナーを設ける。資料を整理し、常に新しい情報が揃うように心がけたい。 ④ リクエストBOXの設置を継続し、新規図書の購入時に参考にする。 ⑤ 今年度は行方不明の図書を除却にしたり、卒業後に返却される図書があったため、定期的に未返却図書の返却を促したい。	

※評価 A･･･十分達成した　B･･･おおむね達成した　C･･･やや不十分　D･･･不十分

令和6(2024)年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	渉外（生徒募集）
2	今年度目標	① 本校が求める生徒像・本校がめざしている学校像を、中学校（3年生担当教師・管理職）・中学校3年生の生徒とその保護者・関係諸機関に、より正しくより広く理解してもらう。 ② 中学校との信頼関係をより深めるために、春と秋の中学校訪問や、要請のあった説明会への参加を積極的に進め、日常の相談活動（個別面談を含む）を充実させる。 ③ 年に8回の学校見学会・個別の見学会は、教育相談的な対応を基本にして実施する。 ④ 春（本校の理解を深めてもらい、各中学校卒業生との様子や進路先を知らせる）と秋（本校を希望する生徒についての情報交換を行う）には、中学校訪問を実施する。 ⑤ 中学校・適応指導教室・市町の教育委員会 等から参加要請があった進路説明会（高校説明会などの名称がある）には、積極的に参加する。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 不登校や不登校傾向にあった生徒が、本校への進学を機に新たな気持ちで自己実現を目指して明るく過ごしている姿や進路状況を伝え、本校が果たしている役割の具体を理解してもらうとともに本校の特色として伝える。 ② 本校に在籍している生徒の様子や進路状況を中学校訪問で伝え、具体的な姿を通して本校が大切にしていることを理解してもらう。また、相談活動を通して、信頼関係を深められるようにする。 ③ 職員共通のマニュアルを作成し、受容的・共感的な姿勢で見学会を行う。 ④ 学校見学会・個別見学会に参加した生徒の様子を伝え、中学校での進路指導に役立てられるようにする。 ⑤ より多くの中学生とその保護者に、本校について知ってもらい、興味をもってもらい、進学先として考えられるようにしていく。

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 本校生徒が自身の経験や入学後の取り組み・成果を記し、具体的な生徒の姿で本校の特色を伝えられる学校案内パンフレットを作成し、本校への進学を希望する中学生とその保護者に示すことができた。 ② 春の中学校訪問では、入学後の生徒の様子を伝えたり卒業後の進路を知らせたりすることで、本校が不登校を経験した生徒に寄り添った指導をしていることを理解してもらうことができた。 ③ 困りごとを抱えて本校への進学を希望して学校見学会や個別見学に参加した中学生とその保護者に対して、受容的・共感的な姿勢で対応し、複数回参加する生徒が多かった。 ④ 学校見学会・個別見学会に参加した生徒の様子を伝え、中学校での進路指導に役立てられるようにすると同時に、中学生の本校への進学意欲についても情報交換し、中学校教員との信頼関係を築いた。 ⑤ 本年度は、各市町の通級教室・フリースペースなどを訪問して、中学校に登校しない生徒と相対している担当者にも本校のことを知ってもらえるようにした。	B B B B A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価		
6	総合的に捉えた成果・課題	① 不登校を経験したり不登校状態にある中学生や保護者、その生徒の進路指導に当たっている中学校教員に本校を理解してもらえる機会が増え、入学者数の回復につながった。 ② 中学校では、不登校を経験した生徒や不登校にある生徒の進学先として本校を第一に挙げて指導されるようになっており、より広く本校のことが知られるようになってきている。 ③ 学校見学会での質問が、入学後の指導のあり方や進路についてのことも触れられるようになっており、より具体的な進学先としてとらえられるようになっている。 ④ 中学校の教員からの問い合わせがより具体的なものになったり、各市町の通級教室担当者からの問い合わせもあったり、中学校などとの連携が進んできている。 ⑤ 郡上市・関市・可児市など遠方からの説明会参加要請もあり、本校に興味をもつきっかけとしての機会が増えている。	B B B B B
7	次年度に向けた改善策・目標	① 本校生徒自身が本校で活躍している姿が中心となる内容で、不登校を経験した生徒や不登校にある生徒並びにその保護者の興味・関心が高まる学校案内パンフレットの作成をする。 ② 年に2回の中学校訪問では、中学校との信頼関係をより深く強いものとし、期待に応えられる相談活動を進める。 ③ 学校見学会の回数を増やし、本校への興味・関心の高い中学生をより多く受け入れられるようにし、参加生徒の姿（情報）を、より詳細に把握できるように努める。 ④ 学校見学会・個別見学会に参加した生徒の情報交換と、本校へ進学した生徒の様子を伝えることで、信頼関係を深められるようにする。 ⑤ 要請には積極的に応え、また、要請されるように関係作りに努める。	

※評価 A･･･十分達成した　B･･･おおむね達成した　C･･･やや不十分　D･･･不十分

令和6(2024)年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	事務
2	今年度目標	① 経費節減と予実管理。 ② 生徒・保護者・教職員への対応の改善。 ③ 教育環境の整備。 ④ 適正で迅速な事務処理。 ⑤
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 予算の開示、職員会などでの周知など、意識付けを継続して行う。 ② 明るく元気な”笑声”で、また、双方の言うことを正しく受け取り、正しく伝え、正しく対応する。 ③ 教務と連携し、書類整備など事務から支援できるところを担う。 ④ 職員間で情報、認識を共有し、事務処理の精度を上げる。 ⑤

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 経常的な経費についての経費削減に努めた。修繕費等の突発的な経費については、収支と比べながら進めることができた。 ② 明るく元気な対応を心掛けた。双方の思い込みも少なからずあるため、納得できるよう努めたい。 ③ 補助金を活用し、iPadや電子黒板を購入することで教育環境の整備を行った。 ④ 職員間の情報共有を高めるため、Teamsを活用し資料を共有することで理解度を深めることができた。 ⑤	A A A A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 生徒対応・情報提供において、保護者80.4%の方が適切に対応できているとの評価をいただき、大変ありがたい。更に信頼関係が持てるよう目指す。 ② 施設設備の充実において生徒アンケートにおいて63.2%の方がそう思うとの回答をいただき引き続き補助金等活用しながら整備を目指す。 ③ ④ ⑤	A B
6	総合的に捉えた成果・課題	① SRメール、HPを活用することで、事務処理の効率化を図ることができた。 ② 親切な対応を常に心掛けること。 ③ 更に正確で分かりやすい案内、連絡の仕方を考えること。 ④ 更に事務処理の効率化を図るため、他のツールの導入も検討が必要である。 ⑤	A A A B
7	次年度に向けた改善策・目標	① 常に「業務の効率化」の意識を持ち、改善に努める。 ② 経費節減 ③ 教員との連携の良好な維持を続ける。 ④ 収支のバランスを考え、学校運営にあたる。 ⑤	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

2024年度（令和6年度） 学校関係者評価委員

令和7年4月1日

委員名簿

役職	ご芳名
朝日大学	村橋 剛史 様
参与	石井 浩二 様
木ノ本自治会連合会会長	松波 伸一 様
坂井町町内会長	篠原 國興 様
ぎふ国際高等学校保護者会会長	香田 久美子 様
ぎふ国際高等学校保護者会副会長	岸 真由子 様
ぎふ国際高等学校保護者会副会長	十河 愛 様（欠席）
ぎふ国際高等学校保護者会副会長	杉原 美由紀 様
学校長	伊藤 学
教頭	後藤 辰也
教頭	仲野 哲
本校 教務責任者	本田 知彦
本校 生徒指導責任者	尾関 将司
本校 教育相談責任者	小澤 美咲
本校 進路指導責任者	徳田 一
本校 養護教諭（保健指導担当）	山本 安菜
本校 事務責任者	八木 隆
本校 学校関係者評価委員会担当	馬場 学

令和6年度 学校関係者評価表

学校名：ぎふ国際高等学校

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	4 十分達成している 3 どちらかといえば達成している 2 どちらかといえば達成していない 1 達成していない	評価の平均 3.4 生徒に倚り沿った地道な学習指導、きめ細かな相談体制によって着実な教育効果を挙げており、進路決定率が90%超えるなど優れた成果を上げている。 目標が明確さがあまりなく、生徒自身がきちんとできるのかが不安です。
2. 学校の自己評価表の具体的目標及び具体的方策の達成状況について	4 十分達成している 3 どちらかといえば達成している 2 どちらかといえば達成していない 1 達成していない	評価の平均 3.4 昨年度新たに取り組む予定としたことは概ね実施できている。また自己評価でも一部がB、C評価だが概ねA評価で、適切な評価がされていると考えられる。
3. 次年度への主な課題の把握について	4 十分達成している 3 どちらかといえば達成している 2 どちらかといえば達成していない 1 達成していない	評価の平均 3.4 日常の指導で気づいた課題を今後の教育に取り入れており、的確な課題把握が行われている。
4. 改善方策の策定状況について	4 十分達成している 3 どちらかといえば達成している 2 どちらかといえば達成していない 1 達成していない	評価の平均 3.4 各項目の課題に対し、具体的で適切な改善方策が策定されていると考えられる。一部昨年と同じものもあるが、優先順位をつけ、着実に実行していくことが望まれる。
5. 「目指す学校像（生徒の基礎学力向上・基本的生活習慣の確立に向けての継続的な指導を行い、生徒〔保護者〕が安心して通う〔通わせる〕ことが出来る学校）」について	4 十分達成している 3 どちらかといえば達成している 2 どちらかといえば達成していない 1 達成していない	評価の平均 3.4 生徒・保護者の満足度は高く安心して通える高校になっていると思うが、これは日々の教職員の努力の賜物と考える。学校に通う生活習慣、学力向上に向け勉強することは、今後も大切であり続けるものであり、地道な努力を今後も続けていってほしいと思う。

令和6年度 学校関係者評価報告書

学校名：ぎふ国際高等学校

1 学校目標

・「自律・進取・創造」の校訓のもと、豊かな社会性を身に付け、地域社会人として信頼される確かな基本的生活習慣・規範意識や考え方・生き方を育成する。
・夢や目標をもち、社会に貢献できる自己の実現に向け、基礎的・基本的な学力の定着を図りつつ、主体的・継続的に学び続ける意欲や態度を育成する。
・他人の立場や思いを理解し、互いの人格を尊重し、思いやりのある言動をとることができる豊かな人間性を育成する。

学校目標に対する評価・意見

社会に出てから自立できることを目標としてる感覚が有り良いと思います。
連合会が主催する盆踊り等に参加して有難いと思っている。今後も連合会の主催行事への参加を期待している。
生徒の性格的なものや、体調などに対していろいろと実施していただけてとても助かっています。
目標が明確であり、それぞれに対し具体策が示され、実行されていることが理解できた。
豊かな人間性を育成するために職員さん方お一人お一人が熱心に取り組んでおられることが良くわかった。
生徒の特性に合った適切な目標である。
現在、高校生は自分で考え行動する能力が求められるようになっているが、それを支えるのは生活習慣であり、社会性である。
不登校を経験した生徒が多いため、本人の学習意欲や人間関係に配慮しながら指導することが肝要と考える。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準1（教育理念・目的・育成人材像等）	3.6	3.7	3.7
基準2（学校運営）	3.6	3.7	3.7
基準3（教育活動）	3.6	3.7	3.7
基準4（教育成果）	3.4	3.5	3.5
基準5（生徒支援）	3.6	3.5	3.5
基準6（教育環境）	3.7	3.7	3.7
基準7（生徒募集と受け入れ）	3.4	3.4	3.6
基準8（財務）			
基準9（法令等の遵守）			
基準10（社会貢献）	3.4	3.3	3.5

※学校関係者評価委員7名による評価の平均。
4：適切な評価である 3：ほぼ適切な評価である 2：やや不適切な評価である 1：不適切な評価である

3 今後の改善意見

地域の行事に参加していただきありがたく思います。
目標達成に向けての取り組み方法について。レインボーとクリスタル合わせた取り組み方法が挙げられていますが。それぞれのクラスの特色から取り組み方は違ってくるものもあるのではないかなと思いました。例えば生徒指導の目標②コミュニケーション能力等の人間的素養についてはとくに思います。
学校の直接の関係者ではないため評価等の判断は難しい。
事業や行事、イベント等のご案内をいただき参観・さんかしてみたいのです。年に2～3回今回のような場があると良いと思います。
生徒1人1人の特性に合った指導が行われており、成果も出せていることから基本的には現在の取り組みを地道に続けていくことが肝要だと考える。現在でも行われているが教員間で生徒の情報共有に務め、よりタイムリーでより個別最適な指導を行っていくことが大切である。そのためには、指導する教員が、ある程度のゆとりをもつことも必要と考える。

4 今後の具体的な改善方策

学校目標として普遍的な目標も大切ですが、社会情勢が変化している中変化に対応できる探究心を培うことも重要だと思う。
目標、取り組み、評価はレインボー・クリスタルそれぞれに作った方がいいように思います。
スタディサプリの利用など新しいことにも取り組み、常に改善を図っている点は評価できる。また、臨床心理士への相談体制も整えられており、生徒が相談しやすい体制を整えていることや、生徒への地道な指導が高い進路決定率につながったと思われる。